

新居見遺跡の発掘調査

平成23年12月1日～平成24年1月31日の2ヶ月間、小松島市教育委員会が、調査主体となる初めての埋蔵文化財発掘調査が小松島市新居見町に所在する『新居見遺跡』において実施されました。

四国横断自動車に隣接する市道部分で、工事により影響を受ける遺跡を記録保存することが目的です。

調査面積は約187㎡でしたが、12世紀後半頃を中心とした遺構が検出され、遺物も出土しています。

発掘調査の簡単な流れ



- ① 遺物の含まれていない土の層を機械で掘削します。
- ② 遺物の入っている土の層はツルハシやスコップなどを使い人力で掘下げていきます。
- ③ 昔の生活面まで掘り下げ、当時の人々が残した痕跡（遺構）を、精査をかけ、土の質や色の違い、含有物などから見つけ出します。
- ④ 見つかった遺構を半分だけ掘ります。
- ⑤ 半分残した部分で土の埋まり方などを確認し、図面や写真などで記録します。
- ⑥ 残っていた部分も掘り、図面や写真などで記録します。
- ⑦⑧ 遺構の中には、その遺構が埋まった時期を特定するための指標となる土器等が、含まれている場合があります。廃棄されたものや埋納されたものなど様々です。
- ⑨ すべての調査が終了すると、埋め戻します。

新居見遺跡で出土した遺物



和泉型瓦器碗
(いずみがたがきわん)



楠葉型瓦器碗
(くずはがたがきわん)



土師質土器羽釜
(はじしつどきはがま)



龍泉窯系青磁碗
(りゅうせんようけいせいじわん)



管状土鍾
(くだじょうどすい)



同安窯系青磁皿
(どうあんようけいせいじさら)

- 瓦器碗 中世前半段階で畿内を中心に生産・使用された土器。
- 龍泉窯系青磁碗 現在の中国浙江省西南部で焼かれた青磁。
- 同安窯系青磁皿 現在の中国福建省で焼かれた青磁。
- 土師質土器羽釜 土製の羽釜。
- 管状土鍾 網につけるオモリ。

新居見遺跡の遺構

今回の発掘調査では、223基の遺構が検出されました。
掘立柱建物跡の柱穴と思われる小穴や溝などが確認されています。

大きな礫の入った土坑



白磁の碗の欠片が出土した土坑



たくさんの土器が埋納された
ピット（小穴）



土師質土器杯が出土した
ピット（小穴）



土師質土器鍋が出土した
ピット（小穴）



0 5m

新居見遺跡平面図 (S=1/200)

今後、土器の実測等の整理作業をおこないます。隣接地の
(公財)徳島県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施してい
る「新居見遺跡」の発掘成果と共に、古の新居見町の姿を解
明する手掛かりとなるでしょう。 (岡本)